



12月は鳴かず飛ばず、じみーにすごしています。年末のヨーカーの大売出し3割引で、じむさい服ばかりでなく少しは明るいのを買いなさいと言われて、ダイダイ色の上着を買って連日それを着てママチャリで走っている。目立ったほうが警察も覚えてくれるであろうから少しは摩擦が少なくなるであろうと言うもくろみ。

しかし、それを買って、帰ってから改めて冬物を出したら着るものはいくらもあって、からだ一つではとうてい着きれないということがはっきりわかる。どうやってみんな着たら

いいのだろう。見栄えがどうであろうとも、この冬の風を防ぎ、雨やほこりに立ち向かえればいいのであって、知っている人は私何が何を着ていても、支障なく理解してくれるはずで、知らない人は、私が何を着ていてもどーでもいいのであって。結局、役に立つのは面接とか、初めて人と会うときや、儀式のときだけなので、そんなものは数着で足りる。とまあ、男は言えるが、女の人はそーもいかないのだから。大変だなーと対岸の火事を見るような思いであった。

この間バングラ関連の人たちと「今年もごくろうさまでした。」と飲んだが、その折、メキシコにシルバーボランティアで行っていて便所を作っている人が一時帰国して、その方(63歳)と初めて会ったのだが、なんだかとりとめのないよれよれの服で、汚れたダイダイ色でずりずりと動いているなーと見ていたが、友人が言わなきゃあいいのに、大声で「それって似てるけど同じじゃないの?。」などと言う。で、結局、同じ時期に同じ店で買った、まったく同じものと判明。その夜中、よれよれダイダイの二人は電車のシートに並んで座って、ぼそぼそ話しながらなんだかどうしようもなく疲れて、でれっとしたまま、帰宅した。まあ、似たようなものなのだ。ダイダイなんか嫌いだ。

しかし、新宿、秋葉原ともう真夜中だと言うのに、なんという若い人たちの氾濫だろう。こいつらは何をやって食っているんだ。なんで、こんなてっぺんから動物のような吼え声を甲高く出して、ひらひらしているのだ。この無防備な女たちのバカさかげんはなんだ。薄っぺらな男たちの薄ら笑いは何なんだ。この光の海は何なんだ。この膨大な無制限な無駄は何なんだ。と、改めて互いの内にある、メキシコやアジアやアフリカの田舎の闇や、ところどころぼつんと輝く人の集まりのぬくもりを思い出していた。こんなことをやっているうちに、遠い氷が解けて、1mほど海面が盛り上がり、天気は劇的に変わり、竜巻や台風が続々とやってきて・・・そうか、その時点で淘汰されればいいのか。何も全員ぬくぬく生き延びる必要はないのだ。今までもそうであったし、これからもそうであろうが、適応していくものだけが、変形しつつ命をつないでいったのだから。こちらもなんとなく変形しつつまあ、守備範囲の短い時間だけ一応生き延びる方向にむかっていけばいいわけだ。などと、ダイダイ色のおじさん二人はよれよれとぶつぶつ言いつつ過ぎていった。

まあ、かんげーないが、その後会ったおじさんが、「着るものなんか安いもんだよねー。この間イトーヨーカドーというところに行ったら、1マンエン以上のものなんかいないんだよ!。」と言っていた。「悪かったね、こっちはその3割引だよ。」と思ったが言うのをやめた。いずれ結果は出るのだ。

と書いているうちに今月の守備範囲は埋まってしまう。まだまだ書くべきことがあったように思うのだが、まあ、いいのだ。さっさと書いて今月もまた金策に走らねばならん。